

(Abridged English Translation)

Cited Document 2

Japanese Utility Model Application Laid-Open No. 2,634/1984

Published: January 9, 1984

Filed: June 30, 1982

Application Serial No. 97,292/1982

Applicant: ISUZU MOTORS LIMITED

Title of the Utility Model:

“ Seat for large truck ”

公開実用 昭和59—2634

⑨ 日本国特許庁 (JP)

⑩ 実用新案出願公開

⑪ 公開実用新案公報 (U)

昭59—2634

⑫ Int. Cl.³
B 60 V 1/10⑬ 識別記号
⑭ 庁内整理番号
C 8008—3B

⑮ 公開 昭和59年(1984)1月9日

審査請求 未請求

(全 頁)

⑯ 大型トラックの座席

横浜市南区上永谷5—15—61

⑰ 実 願 昭57—97292

⑱ 出 願 人 いすゞ自動車株式会社

⑲ 出 願 昭57(1982)6月30日

東京都品川区南大井6丁目22番
10号

⑳ 考 案 者 高橋周孝

㉑ 代 理 人 弁理士 山本俊夫

明 細 書

1. 考案の名称 大型トラックの座席

2. 実用新案登録請求の範囲

運転席と補助席との後方に寝台が備えられている大型トラックの座席において、前記補助席のシートバックの上端面に後方へ傾斜するヘッドレスト差込み穴を設ける一方、前記ヘッドレスト差込み穴へ挿通される支柱の上端に前方へ突出するヘッドレストを支持し、前記補助席のシートバックを前方へ倒した状態で前記ヘッドレスト差込み穴へ前記ヘッドレストが前記シートバックの背面から上方へ突出するように差し替えることによつて、仮眠者の横移動を抑えるようにしたことを特徴とする大型トラックの座席。

3. 考案の詳細な説明

本考案は大型のキャブオーバ型トラックなどの座席に関するものである。

長距離輸送用大型トラックでは、運転席および補助席の後方に仮眠を採るための寝台が備えられているのが一般的である。この寝台の横幅はキャ

ブの大きさによつて制限され、キャブの前後方向の寸法は荷台を配置するには都合の悪いエンジンのちようど上側に配置されるものであるため、エンジンが比較的小型の場合にはキャブの寸法も小さくなり、寝台の幅がそれだけ狭くなる。したがつて、このような場合に補助席を前方へ倒して、この部分を寝台として利用し得るように構成することが好ましい。

しかしながら、補助席のシートバックを前方へ倒して寝台の一部として使用する場合には、次のような問題がある。すなわち、補助運転者が仮眠中に急ブレーキなどが掛けられた場合に、仮眠者が前方へ押出されるなどの不都合がある。寝台に手荷物を載せた場合などにも同様のことが生じる。

本考案の目的は上記問題に鑑み、ヘッドレストを支える支柱が補助席の傾斜した差込み穴へ挿通支持されるように構成し、補助席を寝台の一部として使用する場合に、前配ヘッドレストを反対向きに前配補助席の差込み穴へ差し替えることにより、仮眠者が寝台から滑り落ちるのを防止するよ

うにした大型トラックの座席を提供することにある。

このため、本考案の構成は運転席と補助席との後方に寝台が備えられている大型トラックの座席において、前記補助席のシートバックの上端面に後方へ傾斜するヘッドレスト差込み穴を設ける一方、前記ヘッドレスト差込み穴へ挿通される支柱の上端に前方へ突出するヘッドレストを支持し、前記補助席のシートバックを前方へ倒した状態で前記ヘッドレスト差込み穴へ前記ヘッドレストが前記シートバックの背面から上方へ突出するように差し替えることによつて、仮眠者の横移動を抑えるようにしたものである。

本考案を実施例に基づいて説明すると、第1図に示すように、トラックのキャブの内部には、パーセルボックス15を挟むようにシートクッション1とシートバック2からなる運転席3と、シートクッション4とシートバック5からなる補助席6とが備えられており、これらの後方に寝台7が配置されている。寝台7の後方は窓10を有する

機壁 12 によつて区画されている。シートバック 2 の上端面にはヘッドレスト 8 が着脱可能に装着されており、第 2 図に示すように、シートバック 5 の上端面にも後方へ傾斜した差込み穴 14 が設けられ、これにヘッドレスト 9 の支柱 19 が挿入支持されるようになっている。

本考案は補助席 6 のヘッドレスト 9 を滑止め部材として使用するようにしたものである。すなわち、第 3 図に示すように、補助席 6 はシートバック 5 を前方へ倒した場合に、寝台 7 とほぼ同じ高さの平坦面を提供するように構成される。そして、ヘッドレスト 9 を傾斜した差込み穴 14 に反対向きに差し替えることにより、シートバック 5 の背面から突出するようにしたものである。

補助席 6 のシートバック 5 はヘッドレスト 9 を支持するために、第 4 図に示すような骨組み構造となつている。すなわち、パイプ材 21 を折り曲げてほぼ長方形をなすループを形成し、この中間部に上下に延びるパイプ材 22 を連結するとともに、パイプ材 21 の上方部分に幅の狭い補強板 2

3を結合する。この補強板23にくぼみ25をプレス成形によつて構成し、このくぼみ25を覆うように連結板24を結合して、差込み穴14を構成する。

第5図に示すように、補強板23の板面に対して傾斜した面を備えるくぼみ25はこの両側壁26を補強板23の板面に対して直角に折り曲げられ、この両側壁は直角に折り曲げられて、補強板23から反対側へ突出し、かつくぼみ25の板面と平行な傾斜面27が形成され、この傾斜面27に連結板24が結合される。このようにして、連結板23の板面に対して傾斜したヘッドレスト9の支柱19を挿通する差込み穴14が構成される。

くぼみ25には穴28が設けられ、第6、7図に示すように、前記くぼみ25を形成する板面の裏側に板ばね29の一端が固定され、かつ板ばね29に設けた突部が前記穴28から差込み穴の内部へ突出される。ヘッドレスト9の支柱19の一面にはくぼみ36が設けられ、支柱19を前記差込み穴14へ差込むと、くぼみ36に板ばね29

の突部が弾性的に係合してヘッドレスト9が所定の高さに保持されるようになっている。

第6、7図に示すように、補強板23の背面には、薄い鋼板または合板などからなる基板35がパイプ材21からなる枠全体を覆うように結合され、該基板35の前面および背面にウレタンなどからなる弾性材33、34が重ね合わされ、さらにこれらは塩化ビニルなどからなる合成レザー31、32によつて被覆される。そして、差込み穴14の入口には合成樹脂などからなる補強部材37が支持される。

上記構成において、通常、補助席6のシートバック5は第2図に示すように、ヘッドレスト9の支柱19が後方へ傾斜した状態で差込み穴14に支持され、ヘッドレスト9は支柱19から前方へ幾分突出しており、シートバック5と釣り合いのとれた位置に配置される。

補助席6を寝台の一部として使用する場合には、シートバック5を前方へ倒すと、第1図に示すように、シートバック5は寝台7とほぼ同一平面と

なり、寝台としてのスペースが拡張される。そして、ヘッドレスト9を一旦引き抜き、これを反対向きに差込み穴14へ差込むと、第3図に示すように、ヘッドレスト9がシートバック5の背面から上方へ突出した状態となり、これによつて仮眠者の横移動を抑えることができる。

また、運転者の携行荷物などの置き場所として寝台7およびシートバック5の背面を利用する場合にも荷物の前方移動を抑えることができる。

本考案は上述のように構成したので、補助席6のシートバック5を寝台7の一部として広く利用することができ、しかもトラックが急ブレーキなどを掛けた場合に仮眠者が前方へ滑り落ちるのをヘッドレスト9によつて抑えることができ、仮眠者の安全を図ることができる。

しかも、ヘッドレスト9はシートバック5と同様に軟質の材料から構成されているので、仮眠者が前方へ押出されても安全に抑え、フロアへ滑り落ちるのを防止することができる。そして、滑止め部材として標準的に装備されているヘッドレス

トを差し替えるだけのものであるから、他に特別の消止め部材を設けるのに比べて経費の節減にも役立つ。

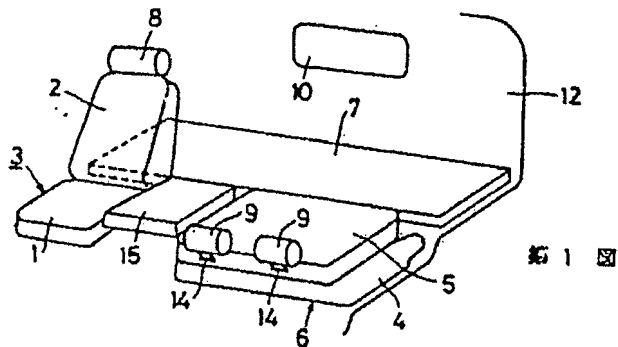
4. 図面の簡単な説明

第1図は本考案に係る大型トラックのキャブにおける座席を寝台の一部として使用する状態を示す斜視図、第2図は本考案に係る大型トラックのキャブにおける座席の通常の使用状態を示す側面断面図、第3図は同座席を寝台の一部として使用する状態を示す側面断面図、第4図はヘッドレストの支持機構を示す斜視図、第5図は同ヘッドレストの支持機構についての拡大斜視図、第6図は同側面断面図、第7図は同平面断面図である。

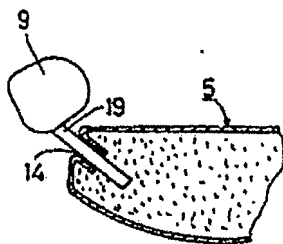
4 : シートクッション 5 : シートバック 6 :
補助席 7 : 寝台 9 : ヘッドレスト 14 : 差
込み穴 19 : 支柱

実用新案登録出願人 いすゞ自動車株式会社

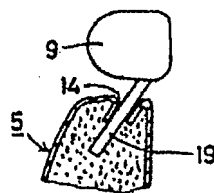
代理人 弁理士 山本俊夫



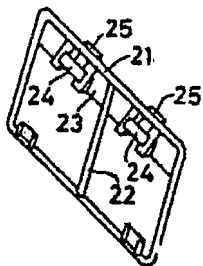
第 1 図



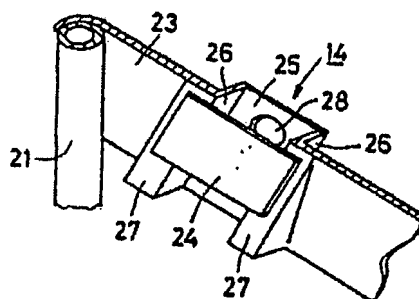
第 3 図



第 2 図



第 4 図

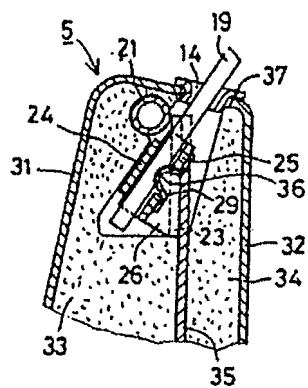


第 5 図

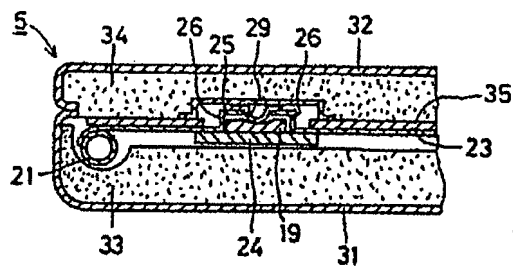
328 実開 59- 2634

代理人 弁理士 山本俊夫

74



第 6 図



第 7 図

代理人 弁理士 山本俊夫

75

⑬ 日本国特許庁 (JP)

⑭ 実用新案出願公開

⑫ 公開実用新案公報 (U)

昭59—2634

⑮ Int. Cl.³
B 60 N 1/10

識別記号

庁内整理番号
C 8008—3B

⑯ 公開 昭和59年(1984)1月9日

審査請求 未請求

(全 2 頁)

⑰ 大型トラックの座席

横浜市南区上永谷 5—15—61

⑱ 実 願 昭57—97292

⑲ 出 願 人 いすゞ自動車株式会社

⑳ 出 願 昭57(1982)6月30日

東京都品川区南大井 6 丁目22番
10号

㉑ 考 案 者 高橋周孝

㉒ 代 理 人 弁理士 山本俊夫

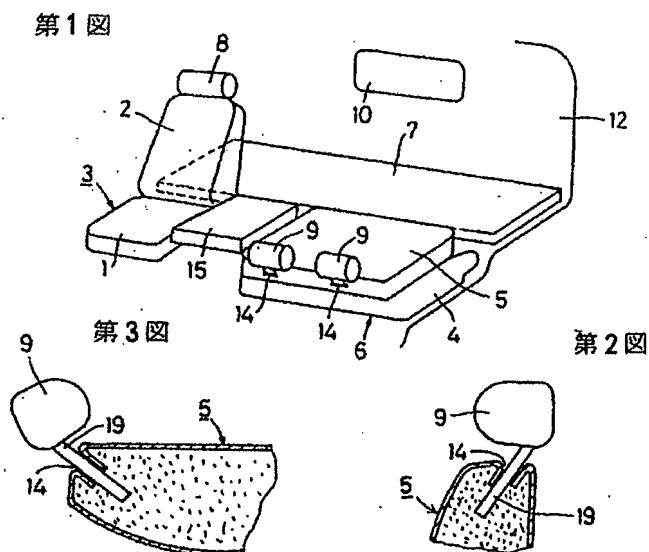
㉓ 実用新案登録請求の範囲

運転席と補助席との後方に寝台が備えられている大型トラックの座席において、前記補助席のシートバックの上端面に後方へ傾斜するヘッドレスト差込み穴を設ける一方、前記ヘッドレスト差込み穴へ挿通される支柱の上端に前方へ突出するヘッドレストを支持し、前記補助席のシートバックを前方へ倒した状態で前記ヘッドレスト差込み穴へ前記ヘッドレストが前記シートバックの背面から上方へ突出するように差し替えることによつて、仮眠者の横移動を抑えるようにしたことを特徴とする大型トラックの座席。

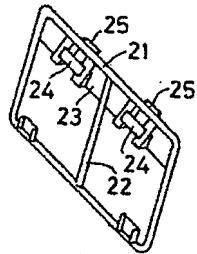
図面の簡単な説明

第1図は本考案に係る大型トラックのキャブにおける座席を寝台の一部として使用する状態を示す斜視図、第2図は本考案に係る大型トラックのキャブにおける座席の通常の使用状態を示す側面断面図、第3図は同座席を寝台の一部として使用する状態を示す側面断面図、第4図はヘッドレストの支持機構を示す斜視図、第5図は同ヘッドレストの支持機構についての拡大斜視図、第6図は同側面断面図、第7図は同平面断面図である。

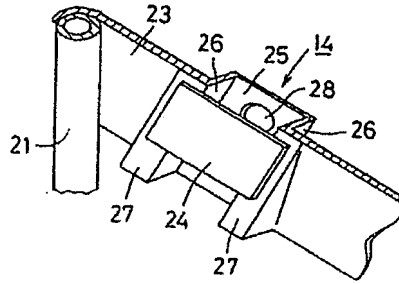
4:シートクッション、5:シートバック、6:補助席、7:寝台、9:ヘッドレスト、14:差込み穴、19:支柱。



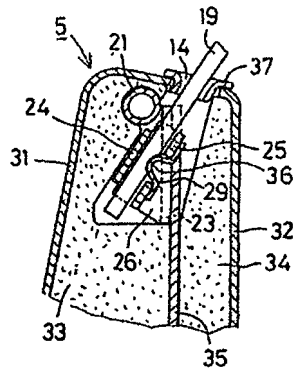
第4図



第5図



第6図



第7図

